

ひと
女ひと
男

男女が共に生きるメッセージ



パートナーシップ

問合せ先 企画課男女共同参画推進係 ☎72-2111内線222

災害に備えて考えること

昨年の熊本地震や7月の九州北部豪雨のような大きな災害は、今後も起きる可能性がゼロではありません。自宅が被災した場合、安全な場所に避難し、避難生活を送ることになります。長期にわたる可能性が高い避難所生活でこういった配慮が必要になるのか、男女共同参画の視点で考えてみましょう。

避難所の運営

大規模災害時など避難所生活が長期化する場合は、避難者による自主的な避難所運営が基本となります。

避難所では、さまざまな性別や年齢、生活背景の人々がともに生活します。乳幼児、高齢者、障がい者、介護が必要な人、外国人など多様な人々への配慮を考える上で、男女共同参画の視点も欠かせないもののひとつです。

- ☐ 管理責任者への男女両方の配置、運営組織への女性の参画
- ☐ 女性や子育て家庭のニーズの把握、女性担当者による対応
- ☐ 避難者による食事準備や清掃などの役割分担(性別や年齢で固定化しない)
- ☐ 就寝場所や女性専用スペースなどの巡回警備、暴力を許さない環境づくり
- ☐ 女性専用相談窓口・男性専用相談窓口の整備と周知



備蓄品の管理

備蓄品についても、当事者でなければ見落としてしまうことがあります。何を備蓄する必要があるのか、男女がともに参画し検討することが重要です。

女性

- ☐ 生理用品
 - ☐ おりものシート
 - ☐ 下着
 - ☐ サニタリーショーツ
 - ☐ 中身が見えないゴミ袋
- など

乳幼児

- ☐ 粉ミルク
 - ☐ 哺乳瓶、消毒剤
 - ☐ 湯沸し器具
 - ☐ 小児用紙おむつ
 - ☐ おしりふき
- など

高齢者

- ☐ 成人用おむつ
 - ☐ 尿もれパット
 - ☐ 高齢者用食品
- など



いくつか例をあげていますが、必要とするものは個人によって異なります。日頃から、話し合っ自分や家族に必要なものを確認しておきましょう。



おごおり女性ホットライン ☎092-513-7337

月～金曜日／午前10時～午後5時(祝日、12月29日～1月3日を除く)

配偶者や恋人からの暴力についての相談のほか、セクシュアル・ハラスメントや仕事、地域、家庭のことなどさまざまな悩みに、専門の相談員が対応します。



配偶者や恋人からの暴力に悩んでいませんか？
ひとりで悩まずに相談してください。

